

花と笑顔と神秘の島

ポンペイ Pohnpei Island

- 01/ 頭上を悠然と通過して行くマンタたち
 02/ ポンペイの象徴、ソケースロック
 03/ ポンペイ島はハイビスカスの形をしている

ミクロネシア連邦の首都がある、ポンペイ島。

しばらくの間、日本人オペレーションのダイビングサービスがなくて、日本からの観光客の足も遠のいていた島。

そこに、今回新たにレインボーダイバーズがサービスを立ち上げるようになった。

飛行機はこの島の象徴、ソケースロックを横に見ながら、短い滑走路へと着陸した。



Flowers 花

「その島の形は、ハイビスカスに似ている」。誰が
そう言い始めたのか知らないが、ポンペイの地
図を広げると、入り組んだ島の海岸線、それを覆う
ように発達したバリアリーフの様子が、確かに美しく咲き
誇るハイビスカスのように見えてくる。

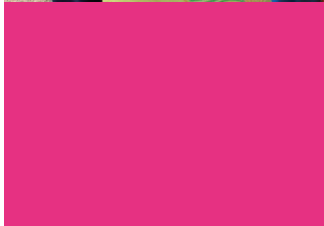
そしてこの島が、いつの頃からか「ミクロネシアの花
園」と言われるようになったのは、豊富な雨量がジャング
ルに潤いを与えていて、色とりどりの可憐な南国の花々

を島のいたるところで見ることができるからでもある。

島を巡る周遊道路を車で走っていても、赤や黄色、オ
レンジやピンク、白に紫と、様々な花が咲き誇る姿が目
に飛び込んでくる。特に、この島の象徴でもあるハイビ
スカスの種類と色の多さには、感動するに違いない。

島の南東部には、ケプロイの滝へ続く小道も、両脇
に花々が咲き、まるでおとぎ話の中に迷い込んだような
景色に、心が踊る。

Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ポンペイ**



そんな花々に囲まれた景色の中で出会うのが、無邪気な子供たちの笑顔だ。一人の男の子にカメラのファインダーを向けると、わらわらと別の子供たちが集まってきて、一緒にポーズを決める。撮影するたびに、撮った画像を見せると、お互いが顔を見合わせて大笑いしている。そして「もう一回撮って」と催促してくる。撮った画像を皆で覗き込み、また顔を見合わせて笑顔を見せる。どこに行っても、そんな感じ。

子供の無邪気な笑顔と、咲き誇る花々は、旅する者の心を和ませてくれる重要なアイテムだけど、それ以上に、この島の大切な宝物だと感じた。

smile 笑顔



Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ポンペイ**

Mystery 神秘

- 01/ ナンマドール遺跡の中心ナント
ワス
- 02/ 空から見ると、その巨大さが良
くわかる
- 03/ 規則正しく積み上げられた玄
武岩
- 04/ ナントワスへの入り口



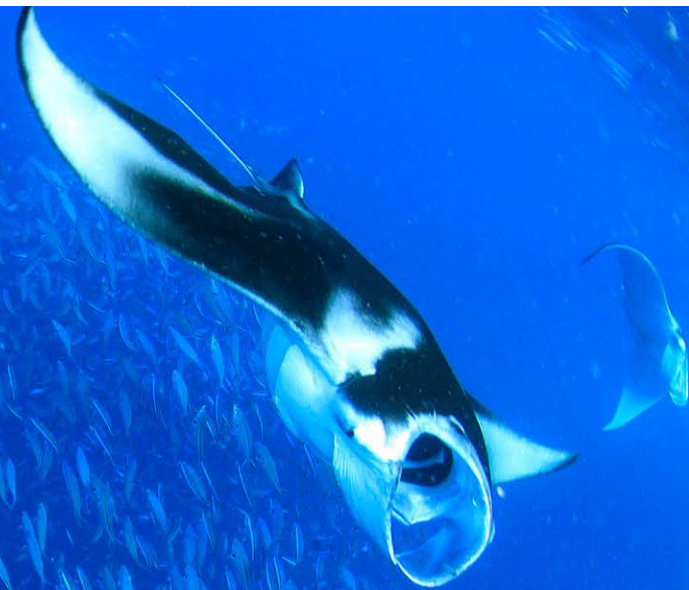
島の南東部には、謎の海上遺跡のナン・マドールがある。紀元500年頃から作られ始めて、紀元1500年頃まで、建造が行なわれていたと言われる巨石文明。一説には20万人もの人口を持つ、巨大都市だったとも言われる。

遺跡に使われた玄武岩は、「マジカルパワー」によって、空を飛んで来て積み上げられたという伝承もあるくらい、今だにどのようにして作られたのかは、神秘に包まれたままだ。

ナン・マドールは「中間の場所」という意味があり、ここに別世界への入り口が存在するとも言われているし、海中に沈んだ伝説の大陸、「ムー大陸」の首都だったのではないかという説まである。

また、コロニアからナン・マドールへ向かう途中にある、玄武岩でできた丘陵には、ポーンパイブ・ベトログリフという、岩石彫刻が見られたり、巨大ウナギが神として神聖視されていたり、神秘的な話題が満載な島という印象が強い。

Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ポンペイ**



ダイビングのオペレーションは、レインボーダイバーズの他にも、現在ビレッジにあるダイビングサービスが行なっているに過ぎない。一昔前は、パラオとその覇権を争う程に、人気のあったポンペイのダイビング。

決して魅力の無い場所ではない。人気のダイビングポイントは、バルキル、パーランなどのチャネルダイブ、離島環礁のアンツ環礁パキン環礁への遠征ダイブなどがある。

特にマンタロードは、マンタが補食やクリーニングに姿を見せることで有名だ。狭いチャネルにマンタがやってくるから、潜らなくても、ボート上から、マンタがいるか、いないかがすぐに確認できてしまう。

ブラックマンタの個体数も、全体の30%くらいと、ミクロネシアやパラオなどの島の中では一番多く目撃することができる。

ここでは、補食中のマンタは、水面下で泳ぎ回っているために、スノーケリングでも、目の前でマンタを堪能することができる。今まで様々な海に撮影に行ったことがあるが、これほどスノーケリングでマンタを真近に楽しめる海は、見たことがない。今回は、一度にブラックマンタ2匹を含む、8匹ものマンタに遭遇することができた。

ベストシーズンは3月。最高で、この狭いエリアに43個体ものマンタがひしめき合っていたことがあるそう。11月頃からGW頃までの遭遇確率は80%、GW後から10月末まででも、50%と、マンタとの遭遇率は高い。おまけに、ダイビングオペレーションが少ないから、今なら、ほとんどの場合、マンタを独占状態で満喫できるに違いない！

Diving
ダイビング

マンタロードに補食に姿を見せたマンタとスノーケルを楽しむ

Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ポンペイ**



01
03



02
05

ダイビング *Diving*



04

- 01/ボートの真下にまでやってくるマンタ
- 02/ アンツ環礁のチップパッセージ
- 03/ 中部太平洋に分布するオレンジフィンアネモネフィッシュ
- 04/ ハルキルチャネルで定番のギンガメアジの群れ
- 05/ カラフルなイソギンチャクに生息する、ハナビラクマノミ



Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ポンペイ**



❀01 クリフレインボーホテル&クリフレストラン

レインボーダイバーズが店舗を構える予定のホテル。併設のクリフレストランでは、ランチスペシャルがおすすめ。和食のメニューが豊富で、美味しいと人気だ。

❀02 サウスパークホテル&レストラン

ソケースロックも一望できる、サウスパークホテルは、レインボーダイバーズのあるクリフレインボーホテルからも徒歩1分ほどのところにある。マネージャーが日本人なので、安心。ベッパーステーキはボリューム満点。週末のディナータイムには、中庭での、ダンスショーなども開催している。

❀03 ジョイホテル&レストラン

部屋は長期滞在用者のシングルルーム中心。以前はダイビングのオペレーションも行っていたが、現在は宿泊とレストランのみ。ラーメンは、本格的な生麺で、美味しい。

❀04 ザ・ビレッジ&レストラン

アメリカ人オーナーの、超自然志向のエコリゾート。コロニアからは車で20分ほどのジャングルの中にある。レストランからの、ジャングルと海、ソケースロックを一望できる眺めは最高。ステーキの種類が多く、人気が高い。

❀05 セイレストラン

コロニアの町中にある、レストラン。ブッフスタイルで、様々な食事が楽しめる。こここの、スペシャルメニューは、ボンベイ産の生胡椒の天ぷら。沢山は食べれないけど、酒のつまみに、ぴりりと辛みの効いた意外な味がマッチしている。オーダーベースで作ってくれるかも。



❀06 スペイン砦跡

アルフォンソ砦とも呼ばれている。この砦は1887年に起こったボンベイ人のスペイン人に対する反乱の後に建てられた。その後、知事公邸、病院、政府施設などに利用された。現在はアーチ型の門と玄武岩の堀の一部しか残されていない。野球場と公園の間の壁として利用されている。

❀08 カビンガマランギ村

カビンガマランギ島から25年程前に移住して来たポリネシア系住民の村で、マンフロップなどを使って作った木彫りのハンディークラフトがおみやげとして有名。マンタやハンマーヘッドシャーク、クジラ、イルカなど、かなり精巧に彫られている。

❀07 ドイツ鐘桜カンリク教会

コロニアでも最も絵になる史跡の一つ。スペイン砦の裏手に教会のような鐘桜が建っている。教会は1886年に初代スペイン人知事とともにやって来たカプチン会修道士6人によって建てられ、その後、ドイツ統治時代に、教会の一部として鐘桜が建て増された。1944年の太平洋戦争中に、日本軍によって破壊されてしまい、今は鐘桜だけが昔の面影を残している

❀09 レインボーダイバーズ

2010年1月25日にクリフレインボーホテル内にダイビングショップをオープン。ボート2隻で、オペレーションを行なう。ダイビングのみならず、ケブロイの滝や、ナン・マドール遺跡などへのランドツアー、エコツアーなどにも力を入れて行く予定。

❀ アクセス

日本からは、コンチネンタルミクロネシア航空利用で、日本9都市（札幌、仙台、新潟、成田、名古屋、関空、岡山、広島、福岡）から、グアムへアクセス。成田、名古屋、関空からは毎日就航。グアムーボンベイ間は、週4便、往路、月、水、金、日。復路、火、木、土、月

Pohnpei Island
花と笑顔と神秘の島 **ボンベイ**